

聖書を楽しむ

—ことば と こと— (その1)

笠井勝子

1. イエスの family name は？

イエス・キリストには、キリスト・イエスという呼び方もあります。ですから、イエスが first name でキリストが family name と考える訳にはいきません。Queen Victoria や Emperor Hirohito の Queen や Emperor 同様、Christ は称号と考えればよいのです。「油そそがれたもの」というその意味は、王のことを指しています。油をそそがれる、ということは、古くイスラエルの歴史の中では、神からの任命を受けることでした。キリストが称号で、イエスが個人名です。それでは family name は何とあったのでしょうか？ それがないのです。これはイエス・キリストに限らず、当時のユダヤ人には、家族名というのが、ありませんでした。マリヤであり、ヨセフであり、アブラハムであり、イサクでありました。Identification は「何某の子」という言い方で行なわれたのです。羊飼いの少年ダビデを故郷ベツレヘムから召し出したサウロ王は、ダビデがペリシテ人ゴリアテの首を打ち取って来ると、こう尋ねています。

‘Whose son are you, young man?,’ ‘I am the son of your servant Jesse of Bethlehem.’¹⁾

「若者。あなたはだれの子か。」

「私は、あなたのしもべ、ベツレヘム人エッサイの子です。」

聖書を読む気になって、たとえば新約聖書の第一頁から始めると、いきなりイエス・キリストの系図、ときて、40人位、人の名前がつづきます。この40人が終らないうちに本を閉じるのでは、つまらない。同じこ

とも福音書をかえると、ルカによれば、系譜を逆にさか上る書き方になっています。つまり、初めのマタイでは先祖のアブラハムから書き始めていますが、ルカは、イエスから書き始めているのです。英語でいえばマタイは、A begat B のパタン、つまり父親 A が息子 B をもうけたという言い方をしていますが、ルカの方は、B was the son of A、B は A の息子であった、といえます。これは当時の identification のパタンに習った言い方です。この二つを比べると、

Abraham begat Isaac

David the king begat Salomon of her that had been the wife of Urias

Jacob begat Joseph the husband of Mary²⁾

the Son of Joseph,

which was the son of Heli

which was the son of David,

which was the son of God³⁾

初めての人にも読みやすく、を、一つの目安にして英訳された *The Living Bible* では、ルカのこの部分が B was the son of A ではなく、B's father was A です。

Joseph's father was Heli;

.....

David's father was Jesse;

.....

Adam's father was god.

これは、おもしろい。つまり、この方が読みやすいと考えられているからです。しかしまた、現代の語感にひっかかるような言いまわし——B was the son of A——の背後には、それなりのわけがあったことは、おわかりでしょう。

名前のはなしからは、はずれますが、イエスの系譜について、マタイとルカを見比べてみるとおもしろいことに気づきます。はじめにお話したようにマタイは先祖から始めて、ルカは逆にイエスから先祖にさか上っています。それをひっくり返せば同じになるかというところでもないのです。マタイはその先祖に、信仰の祖と仰がれているアブラハムをおいています。ルカには、もちろんアブラハムはいますが、もっと上にたどって樂園のアダムと、さらに神が登場します。また、マタイは、ダビデの息子にソロモンをおいて、以下、旧約の中で悪名を馳せた王の名前が続きますが、ルカはソロモンのかわりにナタンの名前をあげます。

ソロモンについては、ウリヤの妻によるという一句を落さないところに、マタイの姿勢がうかがえます。すぐれた王さまの代名詞のようなダビデが、部下の妻を、見染めてしまって、その部下を激戦地の最前線に送り、戦死の知らせを待つのです。勿論自分で手を下すわけではないのですが、忠実な部下にそのような計りごとをする王さまの人間らしい弱さを容赦なく描いているのですから、聖書とはおもしろい。

2. 子どもの誕生

馬小屋で生れ、飼葉槽に寝かされたイエスの話は、「ルカによる福音書」に出てきます。

And she brought forth her first born son, and wrapped him in swaddling clothes, and laid him in a manger.⁴⁾

「布にくるんで」と訳されているこの swaddling clothes は、おむつや産衣ではなく、包帯のようにぐるぐるまいて、赤ん坊の体を締めつけたものでした。生まれたばかりの子供の身体を締めつけたのはそれによって身体を真直ぐに伸ばそうと考えてのことでした。Swaddling clothes に、自由を束縛するもの、という意味があるのは、この、身体を締めつけたところからきています。

このほか、当時は、産湯を使わせる時に、塩で子供の身体をこすってやる習慣がありました。それは皮膚を丈夫にするためだったのです。

子供が生まれて八日目に名前がつけられます。ルカには、イエスと、ヨハネの名づけが出ています。洗者ヨハネは、またヨカナアン⁵⁾とも言い Oscar Wilde は、その死にまつわる伝説をもとに *Salome* を書きました。その中では、Iokanaan と綴られています。

on the eighth day they came to circumcise the child;
and they called him Zacharias, after the name of his
father. And his mother answered and said, Not so; but
he shall be called John.⁶⁾

長男は、ふつう、父親の名まえをもらいました。しかし、ヨハネとイエスの場合は、ちがいます。

And when eight days were accomplished for the
circumcising of the child, his name was called Jesus,
which was so named of the angel before he was
conceived in the womb.⁷⁾

生まれた子に洗礼を授けるのは、後のことで、ユダヤ人にその習慣はありません。洗者ヨハネ John the Baptist はヨルダン川で洗礼をさずけていますが、幼児を対象としているではありません。アブラハムの時代から、男の子は生れて八日目に割礼を行いました。それは部族社会に仲間入りするしるしでした。人々は集ってその子を祝福し賑やかに祝宴にあずかります。ですから、ダビデが、敵ゴリアテを、あの無割礼のペリシテ人、と呼ばわる時、それは侮蔑にほかなりません。

Lions I have killed and bears, and this uncircumcised
Philistine will fare no better than they.⁸⁾

やがて、キリスト教がユダヤ人以外の人々に受け入れられるようにな

ってから、割礼は必要ないと考えられるようになりました。その後、幼児に洗礼をささげるようになります。清教徒の時代には、それが厳格に守られたとみえて、生後最初の日曜日に行われることになっていた洗礼の折、厳寒のニューイングランドでは、洗礼盤 christening font に氷の張っているような洗礼式もありました。⁹⁾

イエスの時代、ユダヤ人は男の子が生まれると、ヒマラヤ杉 cedar を女の子が生れると、糸杉 cypress を植えました。子供の成長と共に大きくなった木は、その子が結婚する時の wedding canopy に使われます。¹⁰⁾

イエスの生れたベツレヘムは、死海の北端の西側、エルサレムから少し南に行った所です。この町は、また、ダビデの町ともよばれています。ヘンデルの「メサイヤ」の曲中ソプラノの recitative は、こう歌います。

For unto you is born this day in the city of David,
a Saviour which is Christ, the Lord.¹¹⁾

ダビデが羊飼いの少年時代、豎琴を弾き、歌をうたって過したのが、ベツレヘムでした。

3. 結婚

結婚といえば、カナの婚宴のはなしと、ランプをもった十人のおとめのはなしがあります。

カナ, Cana [kéina] は、ガリラヤ地方にある村です。死海の北端から100キロ余り北のところにガリラヤ湖, the sea of Galilee [gælili:] があり、そのガリラヤ湖の西側の肥沃な地域が、ガリラヤです。

ユダヤ人の結婚の宴は七日間続きました。親せき、友人は勿論、その土地の人びとがおおぜい集まってくるのですから、裕かな家でなければ、宴の途中でお祝の酒に事欠くようなことも時にはあったでしょう。カナの婚宴のはなしはそのような宴席のできごとです。

結婚はたいてい秋でした。穀物を収穫し、ぶどうを摘んで、この時期人びとは自由で平和な気分になっています。結婚の前日に、花婿は夕方友人たちと一緒に盛装をして花嫁を迎えに出かけます。行列を組んで、輿に乗せた花嫁は顔にヴェールをかけています。故郷の家族の元を立て、イサクに嫁ぐために、はるばるネゲブの地まで駱駝に乗って旅してきたリベカも遠方に、夫となるイサクの姿をみると「ベールをとって身をおおい」¹²⁾ました。

さて、行列は、にぎやかに花婿の家に着きます。そこで花婿の両親から祝福のことばを受け、また参列者はこれに和すのがしきたりでした。その夜、花嫁は自分にあてられた部屋で友達と共に過ごします。さて婚礼の日はお祭りのような雰囲気、集まった者たちは遊戯や、競技や、踊りで時を過します。夕方になって、食事がふるまわれると、男たちと女たちは離れて食事をしました。やがて、白い衣裳をまとった花嫁の友人が十人、手に手に灯火をもって花嫁を取り巻きます。マタイの譬話に出てくる賢い乙女と愚かな乙女とは、この花嫁の友達のことでしょう。

Then shall the kingdom of heaven be likened unto ten virgins, which took their lamps, and went forth to meet the bridegroom. And five of them were wise, and five were foolish. They that were foolish took their lamps, and took no oil with them but the wise took oil in their vessels with their lamps.¹³⁾

花嫁は誕生の木で造った天蓋の下に座ります。ランプを手にした十人のおとめに取り囲まれて花婿と花嫁は美しい愛の讃歌のやりとりを行うのでした。儀式が終ると、若夫婦は退出し結婚が完了します。しかし二人は旅行に出かけることもなく、ふたたび、七日間の祝宴の歌と踊りに加わりました。

灯といえば、ユダヤ人は夜通し、明かりをつけたままにしていまし

た。ですから、ランプの油を絶やさないようにすることは、主婦の大切なつとめでした。ふつうの人々のくらしをつぶさに見たイエスの譬には、そのランプのことも出てきます。

The lamp of the body is the eye. If your eyes are sound, you will have light for your whole body; if the eyes are bad, your whole body will be in darkness.¹⁴⁾

当時はまだ窓ガラスがありませんから、窓はないか、あっても小さく作って、室内は昼間でも暗かったのです。

I am the light of the world: he that followeth me shall not walk in darkness, but shall have the light of life.

4. 衣服

贅沢な服装は、紫の衣と立派な亜麻布の下着でした。

There was a certain rich man, which was clothed in purple and fine linen, and fared sumptuously every day.¹⁵⁾

この紫色の染料は、染料の中でも珍重されました。それは、ムレクスという海に住む軟体動物の分泌物だったということです。

Behold, they that wear soft clothing are in kings' houses.¹⁶⁾

この「柔かき衣」と対照をなすのが、「荒布」saq の服、腰に巻く肌着です。これは山羊の毛で織った粗い布で、喪に服したり、痛悔のしるしに身につけました。

If the mighty works, which were done in you, had been done in Tyre and Sidon, they would have repented long ago in sackcloth and ashes.¹⁷⁾

荒布をまとして、灰の中に座す、神の怒りに触れたものは、そのようにして嘆きと後悔を表わすのが、旧約の時代からの習わしでした。大魚に飲みこまれて、その腹の中で三日三晩を過ごしたヨナがニネベの町に出かけて行って、来たべき神の裁きを告げます。

Yet forty days, and Nineveh shall be overthrown.¹⁸⁾

そこで、ニネベ Nineveh [ninivi] の町の人々は神を信じ、断食を呼びかけ、身分の高い者から低い者まで荒布を着ました。それを聞いたニネベの王も、また、

**he arose from his throne, and he laid his robe from him,
and covered him with sackcloth, and sat in ashes.**¹⁹⁾

灰の中に座ったのは、Cinderella [sinderélə] 一人ではなかったのです。

上等な服と粗末な服が出ましたが、ふつう服には、上衣と下衣がありました。「人もし右の頬をうたば……」に続けて、

**if any man will sue thee at the law, and take away thy
coat, let him have thy cloke also.**²⁰⁾

下衣はチュニック風のもので、男は膝下か、儀式に着るものは上衣よりも長くしました。女性用は、くるぶし位の丈です。風通しのよいように、緩やかな型をしていますから立ち働くのには帯をしめました。Let your loins be girded about このようにして主人の帰りを待つ忠実な下僕は、いつでも、直ぐさま、事にあたれるように仕度の出来ている、という譬に使われました。野良で作業をする者は、チュニックの後の裾を股の間から前へひっぱり、たくし上げて、帯の間にはさみました。

この girdle には、ロープのようなものから、皮、布、それに刺繍をしたものや、絹のものまでありました。内側には、小銭を入れる小さなポケットがついていましたから、1525年の Tyndale 訳聖書は、

Possesse not golde, nor silver, nor brasse in your

gerdels.²¹⁾

と書いています。この in your gerdels という言い方は、Tyndale 訳と 1560年の Geneva Bible のほかは、その意味をとって in your purses になってしまいました。

下衣の上等なものは羊毛で織り上げられていました。兵士がくじを引いた、というイエスの下衣は、このようなものでした。

Then the soldiers, when they had crucified Jesus, took his garments, and also his coat: now the coat was without seam, woven from the top throughout. They said therefore among themselves, Let us not rend it, but cast lots for it, whose it shall be.²²⁾

衣服用の毛織物の素材は、羊の毛や山羊の毛のほかに、ラクダの毛も使われました。パプテスマのヨハネの着ていたものは、ラクダの毛織で、下衣と上衣を兼ねたものでした。

The same John had his raiment of camel's hair, and a leathern girdle about his loins.²³⁾

山羊の毛からは荒布を、羊毛からは上等な織物が織られたように、山羊と羊は、対照的に扱われます。

He will separate men into two groups, as a shepherd separates the sheep from the goats, and he will place the sheep on his right hand and the goats on his left.²⁴⁾

羊と山羊を、一緒にしておくことはありませんでした。The goats were driven and the sheep led と区別して言う位です。Lead は help to go²⁵⁾ by going in front or alongside の意味ですが、drive の方は、urge in some direction by blows, threats, violence の意味があります。Long-fellow の *Psalm of Life* の一節に、Be not like dumb, driven cattle!

Be a hero in the strife!

イエスは自身のことを良き羊飼といたしました。そして、また、我は羊の門なり、I am the door of the sheep²⁶⁾ とも言いました。良き羊飼は、羊を囲いに帰すと、その入口の所で、番をしながら横になって寝たいうことです。囲いに入入りするには、その羊飼の所を通らなければいけません。そのことを羊の門ということばで指しているのです。

衣服の話に戻ります。

上衣は一枚の布に、頭が通る穴を明けただけの簡単なものや、縫い合わせて司法官の着るガウンのようになったものなどですが、正装には欠かせないと同時に、貧しい人びとは、これを夜、毛布代りに被って休みました。出エジプト記で弱い立場にある者を保護するように命じる律法は、もし人の上衣を質にとるような場合でも、日暮れまでには返せといえます。

because it is his only covering. It is the cloak in which he wraps his body; in what else can he sleep.²⁵⁾

下衣は日中、働く時は帯を締めましたが、夜休む時には帯を解くだけでそのまま寝ます。

イエスは終りの頃、ろばの子の背中に乗ってエルサレムに入城します。弟子は、そのろばの背に自分の上衣をかけ、また人びとは、

And many spread their garments in the way: and others cut down branches off the trees, and strawed them in the way.²⁸⁾

大事な上衣を道に敷いて、歓迎と敬意の気持を表わします。

道路には舗装がありませんから道はでこぼこでした。John the Baptist は自分のことを荒野に呼ばれる者の声、と言います。そしてその声は、こう叫びます。

Prepare ye the way of the Lord, make his paths straight. ²⁹⁾

このもとになったイザヤ書は、

Prepare ye the way of the Lord, make straight in the desert a highway for our Lord. ³⁰⁾

高貴の身分の人が旅をする時には、その前触れをする人が、行く先ざきへその到来を告げ知らせ、その通り道のでこぼこを平らに直して、曲りくねったところは真直ぐにして、準備を整えるのが慣わしでした。

the crooked shall be made straight, and the rough places plain. ³¹⁾

キリストは、ダビデの子孫であり、ピラトは十字架につけた罪状書きに Jesus of Nazareth the King of the Jews ³²⁾ と書きました。その王たるキリストの先触れ役がヨハネです。

ヨハネは、自分が前触れをしているキリストについて、「我は屈みてその靴の紐をとくにも足らず」といいます。

There cometh one mightier than I after me, the latchet of whose shoes I am not worthy to stoop down and unloose. ³³⁾

それでは、履き物の話をして衣服の話を終りましょう。

履き物といっても、貧しい人びとは裸足でした。また、神聖な場所、神殿では、履き物を脱ぐことになっていました。ミデヤンの地で、主の使いがモーセに柴の中の炎となって現われた時、こう告げます。

Come no nearer; take off your sandals; the place where you are standing is holy ground. ³⁴⁾

当時の履き物は、紐のついた牛皮のサンダルでした。紐は、止め金でサンダルに止め、足首に巻いて結びます。ヨハネが言った the latchet of

whose shoes は、この止め金をさしています。1946年の *the Revised Standard Version* は、ただ、靴の紐、the thong of whose sandals と書いています。

このような履物ですから、埃っぽい道を歩いて訪ねてくれる客に対して、家の主人は、足を洗う水を出すのが、礼儀でした。驕れるパリサイ人シモンの家で、

I came to your house: you provided no water for my feet;³⁵⁾

そして、そのイエスの、おそらくは埃っぽい道を歩いてきたであろう足を、一人の女が涙で濡らして洗い、髪の毛で拭きます。それは世間で、罪の女と白い眼を向けられる女でした。彼女はさらに、イエスの足に口づけして、香油を注ぎます。女もし長き髪の毛あらば、その光栄なる云云、とパウロは言っていますから、罪の女と言われる程の者ならば、この女性も人並みにきれいで、長い髪をしていたことでしょう。その心を見抜いて、女のなすままにしていたイエスの心の自由さは、次に続く譬と合わせて読むと、おもしろい。

足を洗うといえば、このイエス自身が、食事の席で弟子の足を洗いました。

He riseth from supper, and laid aside his garments; and took a towel, and girded himself. After that he poureth water into a bason, and began to wash the disciples' feet, and to wipe them with the towel wherewith he was girded.³⁷⁾

Girded himself ですから、下僕の格好になります。手元にあったタオルで、腰に帯をしめました。最後の晩餐、と後に言うこの席で、銀貨三十枚に、自分を売る者や、「汝も彼が弟子の一人なるか」と問われて三度「然らず」と否む者の足を、そうと知りながら洗います。

5. 水

パレスチナの気候は一年に二度雨が降るほかは、乾燥しています。この二度の雨は、だいたい、十月と三月に降り、十月の雨を、先の雨、三月の雨を、後の雨といいました。

Behold, the husbandman waiteth for the precious fruit of the earth, and hath long patience for it, until he receive the early and latter rain.³⁸⁾

The New English Bible は、この後半の部分を

Until the autumn and spring rains have fallen.

秋の雨、春の雨と書いています。

農夫が辛抱強く待ちわびたこの恵みの雨も、ひと度降れば、家をも押し流すような洪水になることもありました。岩を土台にした家と、砂に築いた家とは、このような洪水で試めされる、という譬がマタイに出てきます。

The rain came down, the flood rose, the wind blew, and beat upon that house.³⁹⁾

このような雨は、集中的に、数日間降るだけでしたから、雨期というほどのものはありません。

乾燥した気候条件ですから、井戸は、旧約の時代から人だけでなく、家畜やラクダに水を飲ませるために、大切なものでした。それで、井戸をめぐる争いごとが繰り返したほどです。イサクが富み栄えるのをねたんだペリシテ人は、イサクの父アブラハムの掘った井戸にはみな、土を入れて埋めてしまいますし、イサクが見つけた湧き水の出る井戸や掘り当てた井戸を自分たちのものだと言って争います。

サマリヤのスカルという町には、イサクの子ヤコブが残したという、ヤコブの井戸がありました。イエスはそこで、一杯の水を乞います。すると、

Sir, thou hast nothing to draw with, and the well is deep.⁴¹⁾

旅する者なら必らず、ずだ袋の中に、着換えや履き替えのサンダルといっしょに、水を汲む物を入れて行きました。

井戸から水を汲み上げる物は、ふつう、皮のバケツにロープをつけて、家からめいめい自分で持って行きます。旅をする時は、かぼちゃをくり抜いて干したものにロープをつけて携帯しました。そして小石を重石にして井戸の中に下します。布教に行く弟子を、何も持たせずに出したイエスは、自分もまた、そのようなものをもっていなかったのです。水を汲みに来た女は、

What! You, a Jew, ask a drink of me, a Samaritan woman?⁴²⁾

と驚きます。

Samaritan とは、何者でしょうか。一つは a good Samaritan⁴³⁾ の譬があります。もう一つ、十人の癩病人が癒された時に、喜んで、礼を言いに帰ってきたのは、たった一人でしたが、

And he was a Samaritan.⁴⁴⁾

そこで、イエスは、

Could none be found to come back and give praise to God except this foreigner?⁴⁵⁾

このサマリヤ人にしても、「良きサマリヤ人」にしても、ユダヤ人の仲間や、祭司、レビ人よりはるかに勝っていました。「己のごとく汝の隣を愛すべし」という、旧約の時代から伝わる教えがあります。ところが、「彼おのれを義とせんとしてイエスに言ふ『わが隣とは誰なるか』」。これに答えて語られたのが、a good Samaritan という成句を生んだ譬でした。しかし、当時のユダヤ人には、Samaritan のための修飾語に

good はありませんでした。彼らを忌み嫌って一切交渉しなかったのです。そのわけは、旧約の時代に溯ります。ソロモン王の死 (922 B.C.) 後、国が南北に分裂して、北のイスラエルは、古代世界の交通の要路にあったため、異教の風俗、考え方に、絶えず、晒されています。一方、交通の要路からはずれ、乾燥した気候のために作物のほとんどとれない南のユダでは、古来の牧羊で生活し、従って遊牧の時代の、昔ながらの宗教を受継いでいくことは、自然のことでした。サマリヤは、北のイスラエルの首都で、外国から迎えた王妃が異教の神々を持ち込みます。このサマリヤがアッシリヤによって陥落したのが紀元前 722 年。イスラエル人は、⁴⁶⁾ 散りぢりになって歴史から姿を消しました。イエスの時代、サマリヤに住んでいたのは、外国から移されてきた、異教の神々と偶像を崇拝する、人びとでした。それで、ヤーウェを唯一の神とするユダの二部族の者たちは、サマリヤの人と行き来をしなかったのです。

サマリヤの女が、井戸のほとりで、ユダヤ人イエスに水を乞われて、驚き不思議に思ったのも無理からぬことです。「良きサマリヤ人」の譬を話し終えてイエスは、この中の誰が強盗に会った者の隣人か、尋ねます。すると、

The one who showed him kindness.

ユダヤ人の律法学者は、the Samaritan とは答えませんでした。

Notes

- 1) I Samuel 18 : 58
- 2) Matthew 1 : 2—16
- 3) Luke 3 : 23—38
- 4) ibid. 2 : 7
- 5) ヘブル語で Yōkhānān
- 6) Luke 1 : 59—60
- 7) ibid. 2 : 21

- 8) I Samuel 17 : 36
- 9) *Book of Days ed.* by K. & M. Lee
- 10) *Life in New Testament Times* by R.R. Gower
- 11) Luke 2 : 11
- 12) 創世記 24 : 65
- 13) Matthew 5 : 1—4
- 14) *ibid.* 6 : 22—23
- 15) Luke 16 : 19
- 16) Matthew 11 : 8
- 17) *ibid.* 11 : 21
- 18) Jonah 3 : 4
- 19) *ibid.* 3 : 6
- 20) Matthew 5 : 40
- 21) *ibid.* 10 : 10
- 22) John 19 : 23
- 23) Matthew 3 : 4
- 24) *ibid.* 25 : 32 羊は、逆境の人に手をさしのべた人を、山羊は見通しにした人を譬えている
- 25) *Life in New Testament Times*
- 26) John 10 : 7
- 27) Exodus 22 : 26—27
- 28) Mark 11 : 8
- 29) Matthew 3 : 3
- 30) Isaiah 40 : 3
- 31) *ibid.* 40 : 4
- 32) John 19 : 19
- 33) Mark 1 : 7
- 34) Exodus 3 : 5
- 35) Luke 7 : 34
- 36) コリント前書 11 : 15
- 37) John 13 : 4—5
- 38) James 5 : 7 イサクの息子ヤコブは Jacob, イエスの弟子のヤコブは James
- 39) Matthew 7 : 27

- 40) Genesis 26 : 14—22
- 41) John 4 : 11
- 42) *ibid.* 4 : 9
- 43) Luke 10 : 33—35
- 44) *ibid.* 17 : 16
- 45) *ibid.* 17 : 18
- 46) イスラエルとは、アブラハムから三代目のヤコブの別名。彼の十二人の息子からイスラエルの十二部族が出た。このうちユダとベニヤミンの部族がユダ王国を、残りの十部族が北のイスラエル王国を形成した。

テキスト

The New English Bible (Oxford, Cambridge)

The Holy Bible (the Authorized Version)

参考図書

聖書の歴史 サムエル・テリエン著

Life in New Testament Times by R.R. Gower

イエス時代の日常生活 (Ⅰ) (Ⅱ) (Ⅲ) ダニエル・ロブス著

The New Testament Octapla

コンコルダンス 新教出版社

The Living Bible

新約聖書 (日本聖書協会 昭和26年)

新改訳聖書 (日本聖書刊行会 昭和52年)